

- ③若松では、9月から11月に大ホール、小ホール、第一練習室が、空調更新工事のため、使用不可となった。また、第二駐車場が1月よりポンプ場建設のため、使用不可となり、臨時駐車場（徒歩6～7分）を開設した。その際には、十分な期間を持ってお知らせして周知を図り、苦情にならないように対策を講じた。
- ④施設利用者には、HPで空き情報を公開、専門スタッフとの事前打ち合わせで、注意事項の説明を十分に行った。また、来場者には、HPやインスタグラムでのご案内をはじめ、デジタルサイネージ（若松）や館内掲示板で適切な情報提供を行った。
- ⑤両館とも古い施設であるが、日々の清掃により常に清潔感と美観を保っている。館の老朽化が進む中、施設を維持するために懸命に努力している。

【満足度】	R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
要求水準	—	95%	95%	95%	95%	95%
目標	90%	95%	95%	95%	95%	95%
実績	100%	98.2%				

【アンケート 回収率】	R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
目標	80%	90%	90%	90%	90%	90%
実績	100%	100%				
実施件数	72 件	59 件				

※ ・・・評価対象年度

※アンケートの依頼については、毎年10月～3月の期間に実施し、利用者全員を対象としている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

評価レベル
(0～5)

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ①管理運営費は、指定管理料の範囲内で適切に行われている。また、節減の取り組みと

しては、「デマンド管理による電力の抑制」「個人の節電取り組みの定着化」を柱に省エネ対策を行った。

電気料金は北九州パワーとの契約変更により、従量料金が増額となったが、基本料金が大幅に減額されたこともあり、前年度と比べ減額となった。

若松は9月～11月まで大ホール等が使用不可となったことが、電気料金が減額となった一因となっている。

利用件数は、門司の大ホールの利用件数が前年比+30件、若松は大ホール使用不可もあり、▲20件となっている。

光熱水費合計では、11,559千円で、前年比▲1,440千円（▲11.1%）となり、大幅な削減ができた。

②再委託業者の実施には、設備担当者が立ち合い、適正な実施を確認している。

空調機器、舞台設備や映写機の保守点検等は信頼のおける精通した専門業者に委託しており、故障などの発生時の緊急にも備えている。また、職員が館内外の腐食箇所の再塗装や小修繕を行うなど、施設の整備に努めている。

③今年度は、光熱水費、修繕費ともに前年比で削減でき、経費の効果的、効率的な執行ができたと判断している。

(単位：千円)

【支 出】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
光熱水費	計画	12,067	12,624	12,624	12,624	12,624	12,624
	実績	12,790	11,515	—	—	—	—
修繕費	計画	10,700	11,832	11,832	11,832	11,832	11,832
	実績	9,689	10,573	—	—	—	—
その他管理運営費	計画	107,676	120,710	121,077	121,077	121,077	121,077
	実績	107,676	118,342	—	—	—	—
計	計画	130,443	145,166	145,533	145,533	145,533	145,533
	実績	130,155	140,430	—	—	—	—
前年度との比較		—	10,275				

※ ・・・評価対象年度

両館合計の指定管理料及び光熱水費の使用量の実績は次のとおりであった。

(単位：千円)

電 気 使 用 量	R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
実績	257,864Kwh	233,259Kwh				

経費	8,135 千円	6,868 千円				
----	----------	----------	--	--	--	--

ガス使用量	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
実績	22,378 m ³	21,219 m ³				
経費	3,821 千円	3,676 千円				

水道使用量	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
実績	1,565 m ³	1,477 m ³				
経費	1,044 千円	1,015 千円				

※ ・・・評価対象年度

(単位：千円)

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ①HPやインスタグラム等の広報活動により、利用増を図っているが、令和7年度は若松の空調工事で9月～11月のホールおよび第一練習室が使用不可となったことが影響しており、例年の水準には届かなかった。
- ②自主事業として、自販機を設置しているが、販売数が減少傾向にあるため、門司は入札が不調で、令和7年度から設置がなく、若松は4台が2台に縮小し、外部からの収入は減少した。
- ③自販機以外の自主事業は、各催事で実行委員会を組織し、A2Kも加わって運営しており、収益金はその自主事業のために使用することとなるため収益還元はないが、市民が芸術文化に触れる機会を設けており、本来の市民会館の役割に沿った運営をしている。

(単位：千円)							
【収 入】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
指定管理	計画	130,443	145,166	146,182	146,182	146,182	146,182
料収入	実績	130,155	142,798	—	—	—	—
※ ・・・評価対象年度							

両館合計の施設使用料収入額の推移は次のとおりである。(単位：千円)

収入	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度
使用料収入	9,643	9,687				
対前年度比	1%減	0.5%増				

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。		3
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。		
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。		
【評価の理由、要因・原因分析】		
①グループ責任者、統括責任者、館長をはじめ、適正な人員の配置で、管理運営を行った。職員がそれぞれ自分の役割を把握し、積極的にかかわることで、お客様の満足を得ている。		
②接遇の向上を目的として、CS研修を実施した。また、北九州市障害福祉ボランティア協会の協力で実施している福祉講習会も実施し、「高齢者や障害者にやさしい会館運営」に努力しており、長年の積み重ねで、職員ひとり一人に浸透してきている。		
③各館とも、地域団体と連携して自主事業「市民会館まつり」を実施した。地域のまちなぎわいの創出と、地域活性化にも貢献できた。		
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など		評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。		3
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。		
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。		
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はない		

か。	
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	
【評価の理由、要因・原因分析】 ①個人情報管理については、代表企業の朝日建物管理がプライバシーマークを取得しており、その手法に則り、社員教育および内部監査を実施し、適正に管理している。 ②予約が重なった場合は、抽選を実施しており、適切に対応している。 ③該当なし。 ④施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支は、別途帳票を記載し、会館の運営費以外の支出がないように管理し、毎月収支の内容を、朝日建物管理の経理担当者が現金監査を実施してチェックを行っており、適正に管理を行った。 ⑤行事の打合せの際に、主催者に対し安全対策の確認や諸注意を行っており、安全対策について認識の共有を図って、事故の未然防止に努めている。 ⑥消防訓練を実施し、それぞれの職員がどのような役割を果たすのか確認した。火災やその他の事故についても、マニュアルを作成し、周知するようにしている。 ⑦大雨の際は、文化企画課と連携をとり、お客様や職員の安全を図るため、現場の状況に基づいて協議し、早めに閉館した。文化企画課は休日だったが、緊急連絡網を活用して対応した。	

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】

今年度初めて提案事業を実施し、門司の市民企画募集事業、若松のパラフェスタ事業の2件とも市民から好評を得た。若松ではバリアフリー映画を若松図書館と連携して実施し、障害者の方も含めて楽しんでもいただくことができた。このように、市民に優れた芸術文化を提供することができ、市民会館の役割を果たすことができた。

また、職員による小修繕や再塗装を常に行い、会館の長寿命化に貢献できた。門司は建物の老朽化と地域の高齢化により、利用が減少傾向にあるが、R10年には新しい市民会館に移転が決まっており、今後移転準備に関する業務を適切に実施できるよう文化企画課と連携して実施していきたい。

若松では R7 年度に空調工事が実施され、R8 年度には舞台照明設備の更新工事が控えており、大ホールが使用不可になる期間が長くなるが、お客様には事前に周知して、ご迷惑を最小限に抑えていきたい。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局総務文化部文化企画課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市立大手町練習場	施設類型	IV	目的・機能	④
	所 在 地	北九州市小倉北区大手町11番4号				
	設置目的	演劇、音楽その他の利用に供することにより市民文化の向上に資する。				
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制				
指定管理者	名 称	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団				
	所 在 地	北九州市小倉北区室町一丁目1番1号				
指定管理業務の内容		・施設の管理運営 ・貸館業務				
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日				

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 （評価結果）
	（評価レベル：0～5）			（100点満点）	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				35	35
（1）施設の設置目的 の達成	5	5	利用件数・稼働率ともに目標を大きく上回ったため。 （利用件数対目標比：117.4%、稼働率対目標比 117.6%）	20	20
（2）利用者の満足度	5	5	利用者の満足度について目標を上回り高い水準を達成しているため。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				45	29
（1）経費の低減等	3	3	物価の高騰等により、人件費や備品・消耗品費用が増額する中、仕入れ管理を適切に実施し、コスト削減に努めることで計画通り適切に管理されているため。	35	21
（2）収入の増加	4	4	施設使用料が前年度収入額を上回る高い水準となったため。（対前年比 106.6%）	10	8
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	14
（1）施設の管理運営 （指定管理業務） の実施状況	4	4	貸館が主たる業務である施設運営を行う中で、ジュニアオーケストラの練習拠点施設として必要な調整を行うだけでなく、他団体との交流機会の創出に貢献している点が高く評価できる。	10	8
（2）平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	3	3	大手町ビルで実施される年2回の防災・避難訓練への全員参加や事務所カメラを活用した練習室のリアルタイム安全確認等、多層的な安全管理体制のもと適切に管理されているため。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる（80点以上） B：やや優れていると認められる（70点以上80点未満） C：適正であると認められる（60点以上70点未満） D：努力が必要であると認められる（50点以上60点未満） E：かなりの努力が必要であると認められる（50点未満）				合 計	100
				総合評価ランク （A～E）	B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

○施設の管理運営は、施設の設置目的に沿って適正に行われた。
 ○ネット予約が苦手な利用者層への配慮や利用申請時の使用目的・人数・楽器の種類等に
 適した案内や助言の実施等、利用者へのきめ細かなサービスを行い利用者の信頼確保に努
 めている。その結果、施設の利用件数や稼働率・利用者満足度は高い水準を達成しており、
 高く評価できる。
 ○SNSを活用した利用者活動情報の発信等を通じて利用促進に取り組み、新規利用者の
 獲得に努めており、施設使用料収入が増加していることは高く評価できる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

休館施設のグランドピアノを移設・活用するなど、指定管理者自らの提案と柔軟な対応に
 より、利用者満足度の向上につながる取組みを行っている。今後も市と指定管理者と協働
 で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	78	—	—	—	—	78

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）
 について、1期に限り指定の更新（＋5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指
 定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点
 をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立大手町練習場
	所 在 地	北九州市小倉北区大手町11番4号
指定管理者 (自己評価者)	名 称	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団
	所 在 地	北九州市小倉北区室町一丁目1番1号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
なし	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
清涼飲料水等自販機の設置	☒	○	
施設利用者用コピー機の設置	☒	○	
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み			
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)	
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。		5	
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。			
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由、要因・原因分析】			
① 施設の管理運営は適切に行った。 なお、利用件数・稼働率については、下記のとおり算出方法が変更している。 【前指定期間（平成31年度～令和6年度）】 1日の予約枠（全13区分）を3区分（午前1、午後、夜間）単位に分けて、各区分で1件でも利用があれば稼働（利用1件）とみなし、稼働1コマとカウントしている。 【現指定期間（令和7年度～11年度）】 1日の予約枠（全13区分）単位とし、各予約枠で1件でも利用があれば稼働（利用1件）とみなし、稼働1コマとカウントしている。 令和7年度の利用件数・稼働率の実績は以下のとおりである。 【利用者数】※R6年度の（）書きは、R7年度と同様の利用件数・稼働率の計算方法で算出した場合の参考値			
年度	要求水準/目標/実績	利用件数	稼働率
R6年度 (更新前)	要求水準	7,000 件	52%
	目標	7,200 件	56.9%
	実績	8,768 件(25,478 件)	76.6%(51.35%)
R7年度 (1年目)	要求水準	21,700 件	43%
	目標	21,700 件	43.7%
	実績	25,467 件	51.4%
R8年度 (2年目)	要求水準	21,700 件	43%
	目標	21,800 件	43.9%
	実績	-	-
R9年度 (3年目)	要求水準	21,700 件	43%
	目標	21,900 件	44.0%

	実績	-	-
R10年度 (4年目)	要求水準	21,700 件	43%
	目標	22,000 件	44.3%
	実績	-	-
R11年度 (5年目)	要求水準	21,700 件	43%
	目標	22,100 件	44.5%
	実績	-	-

※ ・・・評価対象年度

利用件数は25,467件（目標比117.4%）、稼働率は51.4%（目標比117.6%）となった。要因として、ネット予約ができない利用者を対象として電話による仮予約受付を実施する等、利用者の立場に立ったきめ細やかな対応の継続が考えられる。

来場者満足率については後述（2）①のとおり。

令和7年度は、新指定管理期間の初年度として、電話による仮予約受付、定期利用制度、キャッシュレス決済等、利用者の利便性向上に向けた取り組みを継続するとともに、北九州市ジュニアオーケストラの拠点施設として、同運営委員会と連携した支援も継続した。前年度に引き続き、市民のための数少ない舞台・音楽練習施設として、幅広い芸術文化活動を支援した。

② 利用者の利便性を高めるため、以下に取り組んだ。

- 電話による施設の仮予約受付を継続し、再利用者の申請手続きの省力化に対応
- 安定した練習室・練習日を確保するため、一定の条件を満たす利用者を対象とした「定期利用制度」を継続実施
- キャッシュレス決済（PayPay）を引き続き実施
- 利用申請の際、使用目的・人数・楽器の種類等に適した練習室の案内や各種助言を実施
- 発表会会場としての利用について、事例紹介やレイアウト相談対応等を実施し、多様な利用形態の普及に取り組んだ

③ 該当なし（大手町練習場は単独施設であり、複数施設の一括管理には該当しない。）

④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動として、以下に取り組んだ。

- 新規利用者の需要への対応や継続利用獲得等の取組みを通じた、利用者・関係団体等の口コミなどによる施設のPR・利用促進
- 財団SNSを活用し、利用者の活動風景や定期演奏会等の情報を発信。利用者の広報支援と練習場の認知度向上を兼ねた情報発信を継続
- 財団が発行する情報誌・事業パンフレットを活用し、北九州芸術劇場・響ホールと連携した当施設の紹介を実施
- ホームページによる施設案内の継続的な更新・改善
- 発表会会場としての利用を幅広く呼びかけ、新たな利用形態の開拓を推進

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

5

- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 令和7年度のアンケート結果は以下のとおりである。

【満足度】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
要求水準	—	95%	95%	95%	95%	95%
目標	98%	95%	95%	95%	95%	95%
実績（総合満足度）	97%	100%	—	—	—	—
館内の清潔度	100%	100%				
設備・機器の安全性	100%	100%				
スタッフの対応	100%	100%				

※実績以下のアンケート結果は、回答が無いものを除く

【アンケート回収率】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
目標	95%	95%				
実績	90%	96%				
回収数	37件	53件				

※ ・・・評価対象年度

アンケートの回収率は96%、総合評価「満足層」の割合は100%となった。要因として、窓口対応時等の際、利用者の意見・要望を聞き取り、改善に向け具体的・継続的に取り組んだ結果が反映されたものと考えます。

回答内容を個別に見ると、「館内の清潔度」「設備・機器の安全性」「スタッフの対応」に対する評価が前年度に引き続き高い水準を維持した。

- ② 利用者アンケートの結果を精査し、改善のための資料として活用した。通常利用者のアンケートに加え、年間定期利用団体からのアンケートを引き続き実施し、意見・要望を把握した。また、窓口対応時の会話を大切にし、利用者の意見・要望を聞き取

り、施設の利用改善に努めた。	
③ 利用者からの苦情・要望対応として、以下に取り組んだ。	
○利用者からの要望が高かったグランドピアノを小練習室2に設置	
○使用頻度の高いピアノ補助ペダルと背付きピアノ椅子を各1台購入	
○調律について苦情があった小練習室のアップライトピアノについてキャッチャー交換を実施	
また、施設内で解決できない内容については、大手町ビル管理者や関係部署と協議を行い、実現可能となるよう努めた。	
④ 利用者への情報提供として、以下に取り組んだ。	
○施設利用案内パンフレットを常時窓口に配置	
○財団ホームページに大手町練習場のページを設置し、空き状況や利用手続き・料金等の情報を常時提供	
○窓口や電話での相談に対し、懇切丁寧な情報提供を実施	
○発表会会場としての利用について、事例紹介やレイアウト相談対応等を実施	
⑤ サービスの質を維持・向上するための取組みとして、以下に取り組んだ。	
○職員の接遇研修（職場内接遇研修）の実施	
○室内レイアウトの相談に応じ、ピアノ等の位置のアドバイスを実施	
○気持ちよく利用できるよう、利用前の床・ピアノ等備品の状況点検を実施	
○障害のある方や年長者等の利用者には、職員が準備・片付けのサポートを実施	

2 効率性の向上等に関する取組み							
(1) 経費の低減等		評価レベル (0～5)					
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。		3					
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。							
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。							
【評価の理由、要因・原因分析】							
① 令和7年度指定管理期間初年度として、以下の収支状況となった。							
(単位：千円)							
【支 出】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
管理 運営費	計画	21,555	23,955	24,114	24,114	24,114	24,114
	実績	21,555	23,955	—	—	—	—
前年度との比較		—	2,400				

※ ・・・評価対象年度

指定管理料の実績額は23,955千円となった。前年度比で2,400千円の増となっており、これは指定管理期間の更新時に上限額が引き上げられたことによるもの。

経費低減のため、以下の取組みを行った。

○軽易な修繕については大手町ビルの防災センター設備職員と協力し、指定管理者が実施することで、維持管理費を削減 ○備品・消耗品の仕入れ管理を適切に実施し、消耗品のコストを削減 ○光熱水費は大手町ビル管理者と共同で節減を徹底し、こまめな消灯・節水を実施 ○利用者がいない時間帯は練習室内の照明を消灯し省エネを実施 ○施設のロビーや廊下の照明は利用者の理解を得て節減し、クールビズ・ウォームビズの励行等、省エネを継続 ② 建物の維持管理業務は、大手町練習場が入居している大手町ビル全体で一括契約を行っているため、施設が常に良好な状態を維持できているか確認し、点検の実施確認・結果報告を確実に求めた。 施設内の楽器等の保守点検業務及び夜間受付業務については、専門的技術を有する業者・団体に再委託を行い、適宜契約内容の見直しを行った。 ○楽器保守：ヤマハ CFⅢ・C7A、カワイ RX3・NX50A・US8C 等を専門業者（株）ミュージックストアナガト・（株）河合楽器製作所・（株）コンサート技研）に委託 ○夜間受付業務：公益社団法人福岡県シルバー人材センター連合会に委託（高齢者雇用の促進にも貢献） ③ 指定管理料を収入として使用目的ごとに適正予算を策定し、計画的に執行した。概して効果的かつ効率的な執行がなされた。							
(2) 収入の増加		評価レベル (0～5)					
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。		4					
② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。							
③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。							
【評価の理由、要因・原因分析】							
① 広報の強化やサービスの向上の取り組みをはじめ、定期利用制度の継続実施・電話仮予約の継続によるリピーター確保、財団SNSを活用した利用者活動情報の発信等を通じて利用促進に取り組んだ。 その結果、施設使用料収入は17,227千円（前年度比106.6%）となった。これは、新規の定期利用者の増加等によるものである。							
(単位：千円)							
【収 入】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画	21,555	23,955	24,114	24,114	24,114	24,114
	実績	21,555	23,955	—	—	—	—

(単位：千円)							
【施設使用料】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
施設使用	実績	16,156	17,227	—	—	—	—
料収入	前年度比較	—	106.6%	—			—

※ ・・・評価対象年度

- ② 自主事業として、清涼飲料水等自動販売機（１台）及び施設利用者用コインデポジット式コピー機（１台）を大手町練習場９階事務室前ロビーに設置し、利用者の利便性向上と自主事業収入の確保を図った。

【自主事業における収入】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)
自動販売機 設置事業収入	実績	244	197	—	—
コピー機 設置事業収入	実績	252	227	—	—

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 施設管理責任者として音楽事業課長（兼務）を、事務職員の労務管理者として音楽事業担当課長（兼務）を配置し、場長を中心に業務を遂行した。業務が適切かつ効率的・効果的に実施できるよう、早出・中出勤務の２交代シフトと夜勤専門派遣職員の配置を基本とした体制で管理業務を行い、年間を通じて開館時間に対応した利用者へのサービス提供体制を確保した。
- ② 職員の資質・能力向上を図るため、以下の研修を実施した。
- 職場内接遇研修の実施
 - 新規採用者研修の実施
 - 管理職による職員面談・ストレスチェック・産業医講話の実施によるメンタルサポート
 - 社会人スキルアップ研修（コミュニケーション・組織運営等）の実施
- ③ 地域や関係団体との連携・協働として、以下の取り組みを行った。
- 北九州市ジュニアオーケストラの練習拠点施設として、運営を担う響ホールや、運

営委員会とも連携し、年間を通して活動を支援。令和7年度は、チャリティーコンサートにおける北海道のHBCジュニアオーケストラとの交流演奏会の実現に向けて調整を行うことで、コロナ禍以降減少していた他団体との交流機会の創出に寄与した。また、「NHK アニメ 青のオーケストラ トークショー／ミニコンサート」（北九州ポップカルチャーフェスティバル）への出演依頼に応じて、練習・準備支援及び主催者であるNHK北九州との連絡調整を行い、円滑な実施とイベントの成功に貢献した。 ○北九州市少年少女合唱団・北九州をうたう会・劇団青春座・響ホール室内合奏団等、市が支援する各種文化団体への後方支援を継続	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	3
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 個人情報の保護に関する法律及びその他関連法規を遵守するとともに、当財団が策定した「個人情報保護規程」及び「情報セキュリティポリシー」を徹底し、必要かつ適切な措置を講じた。令和7年度においても個人情報の漏洩等は発生しなかった。 ② 「施設の使用許可に関する業務の基準」を誠実かつ確実に遂行し、利用者の公平・平等を確保した。利用申込が重複した場合は抽選により決定するなど、透明性・公平性に配慮した対応を行った。 ③ 該当なし（大手町練習場は利用者を限定しない施設であり、本項には該当しない。） ④ 使用料等の徴収及び市への納付並びに月例報告等各種報告書の作成・提出とも、適切に行った。 ⑤ 事務所のカメラにより練習室の状況確認を行い、利用者の安全管理・事故防止に継続して取り組んだ。各室出入口敷居の段差等、資機材の搬入や歩行の支障となる箇所には敷板を配置するなど段差解消策を講じた。また、利用前の室内・備品の状況点検を徹底し、安全・快適な利用環境の維持に努めた。令和7年度においても利用者に負傷が生じるような事故は発生しなかった。 ⑥ 大手町ビル施設管理課・防災センターとの協働により警察・消防への連絡体制を確保した。大手町ビル全体で行う防災・避難訓練（年2回）に参加し、職員全員で緊急時対応マニュアルを再確認するとともに周知徹底を図った。「火気関係」「閉鎖障害」	

についての日常点検・確認も継続して実施した。

- ⑦ 大手町ビル全体の防災・避難訓練（６月・１２月）への参加を通じ、事故発生時・非常災害時への対応能力の維持・向上に努めた。各種マニュアル・連絡網・帰宅困難者受入れ態勢を整備し、緊急時に適切に対応できる体制を維持した。令和７年度においても重大事故・災害への対応が必要となる事案は発生しなかった。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

◇全体的な評価

【トピック①：利用件数・稼働率の顕著な達成】

令和７年度は新たな指定管理期間の初年度として、利用件数 25,467 件（目標比 117.4%）・稼働率 51.4%（目標比約 117.6%）を達成した。電話仮予約受付の継続（ネットが苦手な利用者への配慮）・定期利用制度（安定した練習環境の確保）・キャッシュレス決済の継続が相乗効果として機能し、市民のための練習施設として確実に需要を取り込んでいる。

【トピック②：利用者満足度の極めて高い水準】

利用者満足度（100%）は要求水準（95%）・目標値（95%）をいずれも上回り、高水準を維持した。特にアンケート回収率 96%は統計的信頼性が極めて高く、結果の客観性が担保されている。質の高い施設サービスの提供により、「館内の清潔度」「設備・機器の安全性」「利用の円滑さ」「スタッフの応対」いずれも高評価を得ている。

【トピック③：施設使用料の増収】

施設使用料収入は前年比 106.6%の増収を達成している。新規の定期利用者も増加しており、広報強化・定期利用制度・電話仮予約等の利用促進策が収入面にも直結している。

【トピック④：安全管理の徹底】

個人情報漏洩・利用者負傷事故・重大事故対応が必要な事案のいずれも発生しなかった。大手町ビル防災センターとの緊密な連携、年２回の防災・避難訓練への全員参加、事務所カメラを活用した練習室のリアルタイム安全確認等、多層的な安全管理体制が適切に機能している。

【トピック⑤：地域文化団体への支援】

北九州市ジュニアオーケストラの練習拠点施設として、運営を担う響ホールや、運営委員会とも連携した活動支援や、市が支援する各種文化団体への後方支援を継続した。単なる施設管理にとどまらず、地域の文化振興拠点としての役割を着実に果たしている。

◇今後の対応

- 安全・安心な施設環境の維持に最優先で取り組むとともに、北九州市の令和８年度市政方針及び財政運営指針を踏まえ、省エネ・経費節減など持続可能な取り組みも継続していく。施設・設備の老朽化状況を把握し、北九州市と適切に情報共有を行いながら、計画的な修繕・対応に努める。
- 定期利用制度や電話仮予約の活用を通じた稼働率向上、財団 SNS を活用した効果的な広報活動の継続等により、引き続き利用者の増加と使用料収入の確保に取り組む。
- 職員の接遇力・専門性の継続的な向上を図り、北九州市ジュニアオーケストラをはじめとする地域の文化芸術団体との連携を深め、地域の文化振興を支える施設として市民に親しまれる大手町練習場の運営を推進する。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局総務文化部文化企画課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市立旧百三十銀行ギャラリー	施設類型	目的・機能
			I	④
	所 在 地	北九州市八幡東区西本町一丁目20番2号		
	設置目的	演劇、音楽その他の利用に供することにより市民文化の向上に資する。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	株式会社COLT		
	所 在 地	北九州市小倉北区米町一丁目5番15号 勝山大阪町ビル4階		
指定管理業務の内容		・ 施設の使用許可に関する事務 ・ 使用料の徴収に関する事務 ・ 施設の維持管理に関する事務 ・ 貸館業務 ・ 自主芸術文化事業の実施		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 （評価結果）
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	50
(1) 施設の設置目的 の達成	5	5	利用日数・稼働率ともに目標を大 きく上回ったため。 (利用日数・稼働率ともに対目標 比173%)	35	35
(2) 利用者の満足度	5	5	利用者の満足度について目標を 上回り高い水準を達成している ため。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	22
(1) 経費の低減等	3	3	稼働率の上昇に伴い光熱水費等 が増加する中、経費削減に努め ることで適切に管理運営されて いるため。	20	12
(2) 収入の増加	5	5	施設使用料が前年度収入額を大 きく上回る高い水準となったた め。(対前年比118%)	10	10
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	3	3	適切な人員配置のもとで定期的 な職員ミーティングを開催し、業 務に係るスキルや伝達事項を共 有することにより、各職員の資 質・能力向上に努めている点や他 団体との協働による取り組みを 積極的に実施している点が評価 できる。	10	6
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体 制 など	3	3	独自の運用方針を作成し、日常 の事故防止等に努めている。個人 情報の取り扱いや施設使用料の徴 収に際しても適切に管理運営さ れている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	84
					A

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

○施設の管理運営は、施設の設置目的に沿って適正に行われた。
 ○利用者の増加や利便性を高めるための取組みを数多く実施し、利用日数・稼働率について、目標を大きく上回ったことは高く評価できる。
 ○利用者の意見を対話や相談・アンケートを通じて把握し、可能な限り改善に努めることで、利用者の満足度について、目標を上回り高い水準を達成していることは高く評価できる。
 ○貸館利用者だけでなく来場者に対してもアンケートを実施し、多くの意見を聞き取り、施設のさらなる魅力向上に向けて努力を行っていることは評価できる。
 ○従来の取組みに加えてSNSによる広報活動を積極的に行い、新規利用者を増やしたことにより、施設使用料が増加したことは高く評価できる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

指定管理者自身が展示のイベントを多数実施している。今後、イベント実施が更なる来館者数増につながることを期待する。引き続き市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	84	—	—	—	—	84

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立旧百三十銀行ギャラリー
	所 在 地	北九州市八幡東区西本町一丁目20番2号
指定管理者 (自己評価者)	名 称	株式会社COLT
	所 在 地	北九州市小倉北区米町一丁目5番15号 勝山大阪町ビル4階
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
昭和・平成レトロ展開催事業	☒	○	
辰野金吾展開催事業	☒	○	
中古本展示・無料交換市開催事業	☒	○	
松本清張展開催事業	☒	○	
	☐		
	☐		
	☐		
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
陸奥A子展開催事業	☒	○	
POP カルチャーアート展開催事業	☒	○	
夏休み企画 OBAKE（おばけ）展	☒	○	
デジタルマンガ教室開催事業	☒	×	令和8年度に実施予定
グッズ販売事業	☒	×	令和8年度に実施予定
	☐		
	☐		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント	自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
(1) 施設の設置目的の達成 ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	評価レベル (0～5) 5
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 施設の管理・運営等は適切に行われている。目標と比較して稼働率・来館者数ともに大幅に増加できたことで高く評価できる。 ② 以下のような利用者の増加や利便性を高めるための取り組みを行った。 ・「市政だより」や「かるぽー」を活用したイベントの情報提供。 ・ホームページへのチラシの掲載、他施設へのチラシの掲示・配布依頼の実施。 ・ホームページへ貸館情報を掲載し、速やかに予約反映をすることで利用しやすい環境整備を実施。 ・施設の駐車場にイベント告知看板を設置し、公開中イベント～今後の予定を掲示した。道行く人へ何が開催されているのかわかる掲示となっている。 ・SNS（インスタ・FB）特にインスタグラムで写真・動画をUPして集客を行った。 ・イベント時のアンケートとホームページの問い合わせフォームから広く意見を募り可能な限り要望に応え利便性の向上に努めた。 ③ 複数の施設は管理していない。 ④ 以下のような営業・広報活動を行った。 ・チラシ配布先を市民センターや公共施設などさらに増やした。 ・運営職員の人脈による今までとは異なる新規利用者の開拓。 ・イベントによってはマスコミへの取材依頼を行い、PRを実施した。 ・館長が民間企業営業、副館長が公共施設営業を行いリーフレットやイベントチラシを置く場所を増やした。	

年度	要求水準・ 目標・実績	利用日数	稼働率	利用件数 (参考値)	来館者数 (参考値)
R6年度 (更新前)	要求水準	120 日	33.3%	35 件	—
	目標	—	40%	50 件	—
	実績	128 日	38%	45 件	4,244 人
R7 年度 (1年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	144 日	40%	—	—
	実績	249 日	69%	37 件	5,456 人
R8 年度 (2年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	144 日	40%	—	5,000 人
	実績	—	—	—	—
R9 年度 (3年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	162 日	45%	—	5,500 人
	実績	—	—	—	—
R10 年度 (4年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	172 日	48%	—	6,000 人
	実績	—	—	—	—
R11 年度 (5年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	180 日	50%	—	6,500 人
	実績	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※R 6 年度までは、利用件数及び稼働率を要求水準で定めていたが、施設の特性上 1 つのイベントにつき 1 件の利用予約で利用日数（イベント開催期間）が複数日あることが多いことから、R 7 年度以降は、利用日数及び稼働率を要求水準で定め、評価することとなった。

※来館者数については、要求水準で定めていないが、参考値として掲載している。

(2) 利用者の満足度		評価レベル (0～5)
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	5	
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。		
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。		
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。		
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。		
【評価の理由、要因・原因分析】		
・①目標である 95%を超え、高い水準を達成し満足を得られていると言える。利用者アンケート等において、特に『スタッフの応対』および『施設（環境面）』に対して高い評価を得ている。これらの評価項目は『次回利用意向』の回答割合と同程度の高い数値を示しており、良好な顧客満足度の維持がリピーターの確実な確保に寄与している		

ものと分析される。

- ・②③利用者の意見は、対話や相談・アンケートを通じて把握し、重要なものは市と情報共有しつつ可能な限り改善に努めている。
- ・④ホームページで常にイベントや施設の使用の最新情報を提供しており、電話や訪問による問い合わせ・施設見学にも迅速に対応し、利用者の求める情報を届けることができている。(SNS ヘインスタ写真・動画掲載を行った)
- ・⑤過去にない事例が発生した際は、職員で迅速な情報共有と対策を講じ、必要であれば適宜市に報告・連絡・相談を行い改善や対応に努めた。また、実施したイベントの情報を蓄積・共有し、初めて利用される方が行いたい事について類似の事例があれば、積極的にそのときの情報を提供し、利用者がイベントをイメージする手伝いを行って利用客へ寄り添う営業を行っており、その結果施設利用者を増やすことができた。

【満足度】	R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
要求水準	95%	95%	95%	95%	95%	95%
目標値	89.0%	95%	95%	100%	100%	100%
実績	100%	96%	—	—	—	—
有効回答数	29 件	28 件				
スタッフの 対応	100%	95.7%				
施設 (環境面)	92.3%	95.8%				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・①施設の管理運営については、効率的な運営がなされている。光熱費は細かな室温管理を行い、経費削減を図ることで予算を超過することなく執行することができた。
- ・②③再委託業務については、地元企業を基本に再委託先を選定し、見積もり比較を行

って経費削減に努めた。また、一部の清掃業務や駐車場の白線引き等、施設職員で対応可能なものは職員が自ら行うなどの見直しを行っている点は評価できる。

(単位：千円)

【支 出】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
人件費	計画	2,992	5,270	5,270	5,270	5,270	5,270
	実績	3,181	5,270	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	933	996	996	996	996	996
	実績	913	1,740	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	2,643	901	948	1,040	1,024	922
	実績	2,477	1,180	—	—	—	—
一般管理 費等	計画	0	470	520	440	470	420
	実績	0	0	—	—	—	—
計	計画	6,568	7,637	7,734	7,746	7,760	7,608
	実績	6,568	8,190	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※施設の稼働率上昇に伴い、光熱費等が増加し、一部支出に不足が生じたが、当該不足分については株式会社 COLT が補填し会計処理を完了した。次年度以降は、自主事業による財源の確保等を図ることで当該損失分を相殺し、早期の黒字化を目指す。

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・①ホームページやチラシ配布といった従来の取り組みに加え、運営職員の人脈、インスタグラムやフェイスブックといったSNSによる広報活動を積極的に行って新規利用者を増やし、施設の稼働率を上げ、その結果、施設使用料収入が123千円増加した。(対前年度17.6%増)
- ・② POP カルチャー(マンガ・昭和展・おばけ展)等を行い、新しい客層を広げた。
- ・③ 北九州市デザイン協会へのPRを行い市内のデザイナー、写真家、イラストレータへ利用を促進した。

		(単位：千円)					
【収 入】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画	6,568	7,637	7,734	7,746	7,760	7,608
	実績	6,568	7,637	—	—	—	—
自社補填 分	計画	0	0	0	0	0	0
	実績	0	553	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	0	0	560	560	560	560
	実績	0	0	—	—	—	—
計	計画	6,568	7,637	8,294	8,306	8,320	8,168
	実績	6,568	8,190	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※次年度以降、自主事業として以下のような取り組みを予定している。

・イベント開催支援およびクリエイティブ制作事業

主催者に対し、保有器具・機材の有料貸出を行うとともに、イベント企画のコンサルティング、およびパネル、ポスター、チラシ等の広報・デザイン制作を一括して受託するサポート体制を構築し、利用者の利便性向上と新規収益の確保を図る。

・アーティスト・クリエイター育成・交流イベントの開催

株式会社 COLT の主催により、アーティストやクリエイターが集う「出店ブース形式のイベント」を定期開催する。本施設をアート表現および POP カルチャー文化の発信拠点として位置づけ、新たな客層の開拓と参画料等による事業収入を見込む。

・施設オリジナルグッズの開発および物品販売事業

来館者および観光客を対象に、著名な少女漫画家・陸奥 A 子氏のデザインを活かした旧百三十銀行ギャラリーのオリジナルグッズ等の企画・販売を行い、施設ブランドの認知度向上と物販収益の強化を図る。

		(単位：千円)					
【施設使用料】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
施設使用 料収入	実績	698 千円	821 千円	—	—	—	—
	前年度比較	—	123 千円				

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

評価レベル
(0～5)

3

[評価の理由、要因・原因分析] ・①施設の管理運営にあたる人員の配置は適切に行われている。効率的な人員配置と勤務体制により、人件費の抑制を図った。 ・②定期的な職員ミーティングを開催し、その中で業務に関わるスキル(エクセル・ワード・SNS、HP 管理、特殊な施設設備の使用手法、営業のポイントなど)の情報共有・勉強会を行い各職員の資質・能力向上を図った。その結果、業務への共通理解が進み、意見交換が活発になり、利用客への対応のばらつきが減少した。 ・③JR ウォークなど八幡地区で開催されるイベントに協力したり近隣の図書館で廃棄される本を古本交換市イベントで活用し市民の手へ届けるなどの活動を行っている。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	3
[評価の理由、要因・原因分析] ・①施設利用者の個人情報について、関係法令を遵守の上、細心の注意の元、適切な管理を行っている。また、利用申請書を取り扱う管理責任者を館長・副館長とし、その他職員が取り扱う場合の管理監督を適切に行っている。 個人情報の記載されている利用申請書は事務所内の施錠可能なキャビネットに保管し、館長・副館長が管理している。 ・②利用申し込みは平等に取り扱い、利用者の立場に立ったサービスを提供している。 ・③該当なし。 ・④使用料の徴収及び市への納付についてトラブルや不適切なものはなかった。また、月例報告書など各種報告書も適切であった。(どちらも担当者とその他の職員でダブルチェックしフォローできる体制を整えた) ・⑤⑥安全対策・防犯では施設の開館・閉館におけるオペレーション・チェックシート	

の作成と運用を行い日常の事故防止に努めた。また、防犯カメラの操作方法の確認・研修を行った。

防災面では最低限の救急資材を備えるとともに、設置してある AED の操作研修を行った。また、職員全員が参加する自衛消防訓練を実施している。

- ・⑦清掃業者の方の転倒事故が発生したが、幸いにも大事に至らず、緊急時のオペレーションに従い、タクシーによる病院へ送迎、清掃会社・館長・市への報告を適切に行うことができた。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

- ・施設の管理運営は、施設の設置目的に沿って適正に行われた。
- ・館長以下職員の強みを生かした営業活動や提案事業による知名度・来館者数の向上は大きく評価できる。次年度も継続して市民が興味をもってくれるイベントを増やしていく。
- ・アンケートの結果、高齢者層中心の来場が多かった。その層に加えて今後は POP カルチャー層の自主事業を行い若い客層も広げていきたい。
- ・今後は施設利用者（主催者）を増やす為、主催者向け施設利用のチラシ（絵画・写真・イラスト・現代美術・マンガ・ゲーム・アニメ作家用）を作成し施設利用を促進していきたい。
- ・今後は施設の利用期間、利用客、来館者の増加に伴う管理コスト増加をカバーする方法の模索と展示料金以外での収益をあげられる仕組み作り（物販・イベント誘致など）を行う。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局観光にぎわい部MICE・メディア芸術課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州メッセ（北九州国際展示場） 北九州国際会議場	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州国際展示場：北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 北九州国際会議場：北九州市小倉北区浅野三丁目9番30号	I	⑧
	設置目的	【北九州国際展示場】 展示会、見本市の開催の場を提供することにより、産業及び貿易の振興並びに国際交流の推進を図る。 【北九州国際会議場】 国際会議等の開催の場を提供することにより、国際化の推進および市民文化の向上を図る。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ ☒ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	公益財団法人 北九州観光コンベンション協会		
	所 在 地	北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号		
指定管理業務の内容		1 施設の運営に関する業務 施設及び設備、備品の利用許可等に関する業務 2 使用料の収受に関する業務 施設の使用に係る使用料の徴収業務 3 施設の維持管理に関する業務 施設の維持管理及び修繕に関する業務 4 その他 MICE誘致業務、広報業務、コンベンション等の企画・出展 勧誘・開催等に関する業務等		
指定期間		令和7年4月1日～令和10年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	33
(1) 施設の設置目的 の達成	4	3	国際会議場の利用件数は目標に達していないが、2施設ともイベントやコンベンションの誘致を積極的に行い、高い稼働率が達成できている。	35	21
(2) 利用者の満足度	4	4	アンケートの結果、「職員の対応」や「会場・設備」の項目で高い評価を得ている。アンケートの回収率が課題である。	15	12
2 効率性の向上等に関する取組み				30	22
(1) 経費の低減等	3	3	2施設の管理運営費の目標を達成することができなかったが、施設の一体管理等を行うことで経費の削減を実施している。	20	12
(2) 収入の増加	5	5	コンサート誘致コンソーシアムとの連携強化により、大規模イベント・会議が開催され、収入は大幅に目標を上回っている。また、指定管理事業全体の収益も黒字であり、北九州市への還元を実施した。	10	10
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	16
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	4	4	人員を効率的に配置し、人材育成の施策を幅広く実施している。また、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の事務局を務め新幹線口エリアのにぎわいづくりを進めている。	10	8

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制 など	4	4	2施設とも要綱に基づき、適切に利用者の選定が行われている。また、老朽化した施設の修繕や改修工事、施設保全のための点検を積極敵に実施している。	10	8
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	71
					B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

令和7年度は、指定管理者として施設の管理運営を概ね適正に果たしている。
特に「収入の増加」に関しては、コンサート誘致コンソーシアムとの連携強化により、大規模イベントの誘致に成功し、目標を大幅に上回る利用料金収入を得ている点や事業収益を市へ還元している点は極めて高く評価できる。また、アンケート調査において職員の対応が高い評価を得ており、質の高い接遇が行われている。
一方で、国際会議場の利用件数および管理運営費の低減については目標に届いておらず、さらなる努力を求めたい。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。
今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	71	—	—	71

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州メッセ（北九州国際展示場） 北九州国際会議場
	所 在 地	北九州国際展示場：北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 北九州国際会議場：北九州市小倉北区浅野三丁目9番30号
指定管理者 （自己評価者）	名 称	公益財団法人 北九州観光コンベンション協会
	所 在 地	北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号
指定期間		令和7年4月1日～令和10年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
施設の運営に関する事業	☒	○	
利用者への飲食等の提供に関する事業	☒	○	
広報事業	☒	○	
コンベンション等誘致支援に関する事業	☒	○	
便益施設の設置等事業	☒	○	
	☐	○	
	☐	○	
	☐	○	
	☐	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
主催・共催事業	☒	○	
新規展示会開催への取組事業	☒	○	
開催業務の効率化と人材育成の促進事業	☒	○	
主催・共催イベント事業の実施事業	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		4
[評価の理由、要因・原因分析]		
【北九州国際展示場】		
施設の設置目的である産業・貿易の振興及び国際交流の推進のため、展示会・見本市等の誘致に加え、重点分野であるコンサート等のエンタメイメントや大型スポーツ大会の誘致を強化し、多様な交流・にぎわいを創出した。 さらに、関連事業者や団体との連携により主催事業の魅力向上にも取り組み、展示会の事業効果の向上を図った。 また、令和7年度も引き続き、施設利用者の多種多様なニーズに対応した事業運営・誘致営業に取り組み、北九州国際展示場と北九州国際会議場を同時に利用する大規模学会や、北九州国際展示場と西日本総合展示場を同時に利用するエンタメイメント・大型スポーツ大会の開催など、施設相互利用の実績も挙げており、3施設の一体管理による有機的連携のメリットを創出している。 なお、施設老朽化への対応に関しては、自主的な安全点検や修繕、改修工事などを市や主催者と綿密に調整することで、催事への影響を最小限に留めて遅滞なく行い、適切な施設管理を実施している。 広報活動については、専門誌への広告記事やJR小倉駅JAMビジョン等、様々な広告媒体を組み合わせた広報活動に加え、地域のホテル事業者や商店街等に随時催事情報を提供するなど、地域団体や市内事業者と連携した取組みを積極的に行ってきた。 これらの取組みを戦略的に推進した結果、エンタメイメント・大型スポーツ大会の開催の増加等により利用件数及び稼働率は目標を達成し、前年度の実績を上回る成果を上げた。		

年度		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
利用件数 (件)	目標	163	165	165	165
	実績	149	167	—	—
稼働率 (%)	目標	80.0	80.0	80.0	80.0
	実績	80.5	80.9	—	—

※ ・・・評価対象年度

【北九州国際会議場】

施設の設置目的である国際化の推進及び市民文化の向上のため、コンベンションの積極的な誘致活動に取り組んだ。MICE誘致にかかる都市間競争が激化する中、令和7年度は各種商談会等を積極的に活用するとともに、地域の大学や、JNTO・JCCB等の各MICE関係団体、主催者、キーパーソン等との連携強化に努め、地域の特色や受入環境を活かしながら、ニーズに応じたきめ細やかな対応を続けてきた。

併せて、現地でしか体験できないユニークベニューやアクティビティコンテンツの新規開拓・PRを精力的に行った。また、催事についても新規案件の掘り起こしに努めた。

その結果、利用件数とコンベンション誘致件数については目標に至らなかったものの、国際会議場を利用した国際規模・全国規模の学会は前年度比29件増加し、稼働率については目標を達成した。

また、ICCAが認定した国際会議の開催件数が本市史上最高の16件に達し、都市別国内順位は7位を記録した。

年度		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
利用件数 (件)	目標	570	570	570	285
	実績	546	454	—	—
稼働率 (%)	目標	90.0	90.0	90.0	90.0
	実績	96.0	94.4	—	—
コンベンション誘 致件数 (件) (注)	目標	250	250	250	250
	実績	256	208	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度	評価レベル (0～5)
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	4
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。	
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。	
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	

【評価の理由、要因・原因分析】

【北九州国際展示場】

● 数値は「非常に満足・満足」の合計

【会場・設備】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
実績 (%)	88	88	—	—

● 数値は「非常に満足・満足」の合計

【職員の対応】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
実績 (%)	97	100	—	—

【回収件数・回収率】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
件数 (件)	66	44	—	—
回収率 (%)	44	26	—	—

※ ☐・・・評価対象年度

利用者アンケートによると、「職員の対応」については、「非常に満足」が91%、「満足」が9%と、令和7年度も高い評価を得た。アンケートのコメントによると、開催における助言や提案、開催前～当日～開催終了までの一貫した丁寧で迅速な対応等が評価されている。

また、利用者の満足度向上のため、利用者からの意見を把握し改善につなげるQC活動や、スキルアップを図る取組みを自主的に実施している。

これらの取組みの結果、次回の使用についてのアンケート数値において、「ぜひ利用したい」、「機会があれば利用したい」を合わせて95%と非常に高い評価を得ている。

一方、アンケート回収件数が44件と前年度に比べて低くなっているため、アンケートの回収率を上げ、より多くの利用者の意見を聞く取組みを実施する必要がある。

【北九州国際会議場】

● 数値は「非常に満足・満足」の合計

【会場・設備】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
実績 (%)	100	98	—	—

● 数値は「非常に満足・満足」の合計

【職員の対応】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
実績 (%)	99	100	—	—

【回収件数・回収率】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
件数 (件)	161	191	—	—
回収率	29	42	—	—

※ ☐・・・評価対象年度

利用者アンケートによると、「職員の対応」についての数値は、「非常に満足」、「満足」が100%と引き続き高い評価を得ている。アンケートのコメントによると、利用者の要望への柔軟な対応や細やかな気配りなど、職員の対応の良さが評価されている。 次回の利用については、「ぜひ利用したい」、「機会があれば利用したい」が99%と、満足度の高さが裏付けされており、リピーターの増加も期待できる。 また、アンケートの回収率は、前年度と比較し大きく増加している。引き続き回収率を向上し、より多くの利用者の意見を聞く取組みを実施していく。 なお、北九州国際展示場・北九州国際会議場ともにアンケート対象者はイベント実施者であるが、北九州観光コンベンション協会主催展示会においては、一般来場者向けのアンケート調査も行っており、満足度調査では高い評価を得ている。 ●令和7年度調査「(展示会について) 非常に満足・満足」 課題解決EXPO・・・95.5% 西日本陶磁器フェスタ・・・98.2%	
2 効率性の向上等に関する取組み	
(1) 経費の低減等	評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。 ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。	3
【評価の理由、要因・原因分析】 【共通】 2施設の管理運営費は目標を達成することができなかったが、利用想定を超える施設稼働による経費の自然増や業務委託費の高騰など、必然及び外部要因によるところが大きいと考えている。 光熱水費や委託業務に係る人件費単価の値上がりなど、維持管理経費が増加傾向にある中、令和7年度は昨今の利用状況に合わせた施設の電力デマンドの見直しを実施するなど、コスト増を抑える取組みを続けている。 また、再委託については、平成19年度より実施している4施設(北九州国際展示場・北九州国際会議場・西日本総合展示場・AIMビル)の一体管理により、経費削減を引き続き実施している。	

(単位：千円)					
【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
事業費	計画	34,628	39,500	39,500	39,500
	実績	39,758	43,329	—	—
人件費	計画	157,755	160,009	160,009	160,009
	実績	151,409	181,308	—	—
施設維持 管理費	計画	420,384	445,217	445,217	445,217
	実績	427,495	443,988	—	—
その他管理 運営費	計画	47,689	71,286	71,286	71,286
	実績	84,872	63,828	—	—
一般管理費等	計画	0	0	0	0
	実績	0	0	—	—
計	計画	660,456	716,012	716,012	716,012
	実績	703,534	732,453	—	—

(単位：千円)				
【うち修繕費】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
計画	—	22,657	22,657	22,657
実績	15,638	23,073	—	—

※ ☐・・・評価対象年度

(単位：千円)				
【うち共用部分 (ガレリア)】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
計画	56,018	48,828	48,828	48,828
実績	56,540	58,658	—	—

※ ☐・・・評価対象年度

※令和6年度は指定管理期間延長に伴う指定管理料増額で算出された金額ありきの契約で各費用の内訳がないため、当該計画値には、令和5年度の数値を入力している。

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。

5

③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

【評価の理由、要因・原因分析】

(単位：千円)

【収 入】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
展示場等 利用料金収入	計画	231,100	282,221	282,221	282,221
	実績	290,483	326,684	—	—
地下駐車場 使用料収入	計画	93,803	82,897	82,897	82,897
	実績	85,641	82,657	—	—
会議場等 利用料金収入	計画	99,156	97,241	97,241	97,241
	実績	104,290	117,180	—	—
自主事業収益 還元	計画	0	2,802	2,802	2,802
	実績	0	0	—	—
指定管理料 収入	計画	268,420	250,851	250,851	250,851
	実績	268,420	250,851	—	—
雑収入	計画	4,737	0	0	0
	実績	6,298	700	—	—
計	計画	692,216	716,012	716,012	716,012
	実績	755,132	778,072	—	—

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)
利益額	0	45,619	—	—
還元額	0	22,809	—	—
還元率	0%	50%	—	—

※ ・・・評価対象年度

【共通】

利用料金収入は目標値を大幅に上回り、令和6年度収入からも増加した。特に、重点分野であるエンタメイメント・大型スポーツ大会等の大型催事の誘致強化及び施設環境の整備を行うとともに、コンサート誘致コンソーシアムや市との連携も強化し、コンサート等のエンタメイメント・大型スポーツ大会等の開催が増加した。

指定管理事業全体の収益も黒字であり、北九州市への収益還元を実施した。また、一部の概算払い費用においては当協会から持ち出しにより費用補填を行った。	
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。	4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。	
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	
[評価の理由、要因・原因分析] 【共通】 人員については、土日の催事に対応できるようシフトを組むなど、プロパー職員、嘱託職員、派遣職員を効率的に配置している。 人材育成については、サービスの専門的な知識やスキルを習得し、職員の資質や能力の向上を図るため、外部講師を招聘した研修会の開催や、市及び民間団体が主催する研修への派遣、他施設との情報交換など幅広い施策を実施した。 また、JCCB・ICCAが主催する国内外の展示会や、全国展示場連絡協議会・国際会議場施設協議会・日本展示会協会などの業界団体が開催する総会・研修会に積極的に参加することで、同業他社との情報交換を行い、サービスの改善、効率的な施設管理、営業・誘致ネットワークの拡大に努めた。 加えて、職員のQC活動、舞台管理委託業者や設備管理業者との意見交換、接遇マナー研修、国際会議主催者セミナープログラムやWEB配信事例紹介などを実施し、利用者満足度の向上を図った。 地域や関係団体との連携や協働については、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の事務局を務め、様々なイベントを企画・実施するとともに、新幹線口エリアのクリーンアップ活動を年間数回実施するなど、地域の団体と協働して新幹線口エリアのにぎわいづくりを進めている。 さらに、市内のMICE関係者で構成する北九州市グローバルMICE推進協議会の事務局を務め、ホテルや旅行社などの地元関係者が一丸となり、「チーム北九州」としてMICE誘致や開催支援を行っている。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	4
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。	
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。	

④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。	
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	
【評価の理由、要因・原因分析】 個人情報については、マイナンバーに係る書類等の取扱いなどをはじめ、適正に管理している。 平等利用・公平性については、北九州国際展示場管理要綱及び北九州国際会議場管理要綱に基づき適切に対応し、利用者間で利用日が重複した場合は抽選を行うなど、特に大きな問題もなく公平性を確保している。また、法改正にあわせた内部規定の見直しも随時適正に行っており、施設の管理運営に係る収支については会計処理規則を定め、適正な会計処理を行っている。 また、老朽化した施設の修繕や改修工事、施設保全のための点検（一部行政側が行うべきものを含む）を積極的に実施し、安心・安全な施設運営に努めており、令和7年度は、安全面や緊急性を最優先に、委託業者などからのアドバイスも参考にしながら修繕、補修工事に取り組み、国際展示場は60件、国際会議場は29件の工事を実施した。 危機管理体制については、防火管理者と合わせて防災管理者の選任、自衛消防組織及びA I Mビルとの共同防火防災管理体制を整えるなど、適切な対策を講じている。 このほか、近隣での大規模イベントによる騒音や交通規制など、当施設利用者への影響が懸念される際には、事前に施設管理者間で協議・調整を行い、関係各所へ周知と協力を働きかける体制を徹底するなど、円滑にイベントの開催や施設の運営を行えるよう最大限配慮しており、これまで大きなトラブルや混乱は発生していない。 さらに、8月の大雨の際には、J R新幹線等の運転見合わせで発生した帰宅困難者のための緊急避難所をA I M3階展示場等に開設し、235名を受け入れるなど、市と連携して適切な対応を行った。	

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】

【北九州国際展示場】

展示場の利用拡大、小倉駅新幹線口のにぎわいづくり、既存利用者への働きかけや新規顧客の開拓など、展示会・見本市や新規のコンサート等大規模イベント等の誘致に積極的に取り組み、収益を向上させた。今後、より戦略的にエンタメイベント・大型スポーツ大会等大規模催事の誘致を進めていく。

施設の維持管理については、継続して経費削減に取り組みつつ、老朽化の影響により設備・機器等にいつどんな不具合が起こるか分からない状況の中、定期点検以外にも自主的な点検等を積極的に行い、予見される部分の改修や不具合の生じた箇所への迅速な対応など、適正な管理運営を実施している。

また、市との施設改修に向けた協議も積極的に実施しており、引き続き問題意識や計画性をもって施設の管理運営に努める。

【北九州国際会議場】

グローバルMICE都市・北九州市を牽引する施設として、積極的な誘致活動を進めてきた結果、ICCAが認定した国際会議の開催件数が本市史上最高の16件に達し、都市別国内順位は7位となった。

令和8年度以降も会議場の利用状況は好調であり、主催者のニーズ動向を的確に把握した誘致活動が功を奏している。キーパーソンへのアプローチやMICE商談会への参加を継続し、積極的に誘致を進めることにより、国際会議をはじめとするコンベンション誘致件数について高水準を維持し、本市の国際化推進及び市民文化の向上に寄与してまいりたい。

更に、利用者の利便性向上のため、Web上での施設予約手続きを可能とするオンライン予約システムを検討するなど、更なる稼働率向上に向けた取組みも進めていく。

施設管理の面では、開館から30年以上が経過し、施設の老朽化が進む中、不具合が見受けられる箇所は早急に改修・補修を行っており、引き続き施設における日々の点検等、適正な管理運営を実施する。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。